

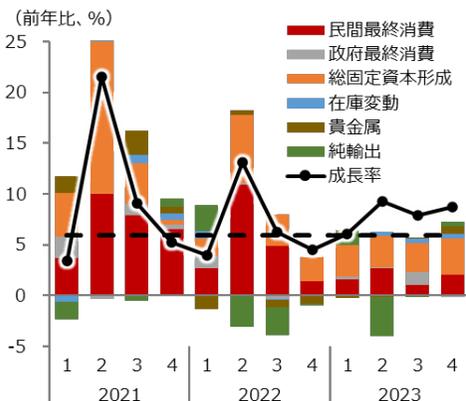
インド

GDP (2023年10-12月期)

高成長が継続、モディ首相3期目入りの追い風へ

政策・経済センター
金成大介
03-6858-2717

1 実質GDP成長率



2 基幹8分野の生産・生産見直し



評価ポイント

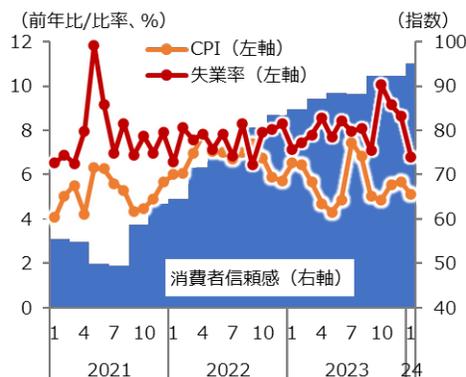
今回の結果

- 23年10-12月期のインド実質GDP成長率は、前年比+8.4%と7-9月期の同+8.1%から成長の勢いが加速した。総固定資本形成、民間消費などの内需伸長に加え、純輸出がプラス寄与に転じたことが成長加速の背景にある（図表1）。インド政府は23年度（23年4月～24年3月）の実質GDP成長率見直しを従来の同+7.3%から同+7.6%に上方修正している。

今後の注目点

- 先行きのインド経済は、インフレ圧力緩和を追い風に、国内外の旺盛な民間投資を起点にした生産拡大、雇用改善、消費拡大の好循環のもと、高成長の継続が見込まれる。
- インド中銀調査（24年2月公表）では、24年1-3月期に増産を見込む企業割合は減少しているが60%近くを維持している。市場の成長性、地政学上の重要性といったインドの強みに着目した対内直接投資も継続が見込まれる。生産は拡大ペースが鈍化するとしても、拡大基調を継続するであろう（図表2）。
- 食品価格上昇などから上限目標（前年比+6%）を上回っていたCPIは沈静化し、インド中銀は23年2月から政策金利の据え置きを続けている。インフレ圧力緩和に生産拡大も加わり、失業率は急低下している。こういった環境のもと、良好な消費者マインドが消費を押し上げるであろう（図表3）。
- 先頃発表の24年度暫定予算案では、財政赤字を抑制（GDP比、23年度5.8%→24年度5.1%）するものの、積極的な財政支出を継続する方針とし、インフラ整備等の資本支出は金額、GDP比ともに拡大を見込む（図表4）。
- 今年4～5月にインドは総選挙が予定されている。世論調査では、高成長を追い風に、モディ首相率いるインド人民党が優勢となっている。大企業寄りの政策を志向してきたモディ首相3期目入りとなれば、投資起点で生産・雇用・消費が拡大する好循環の継続が見込まれる。天候不順などによるインフレ再燃リスクには注意が必要だが、24年度にかけて7%近辺の成長を見込む。

3 CPI・失業率・消費者信頼感



4 政府の資本投資

